

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報
No. 54 2010. 06. 25.
発行責任者 坂東 貞男
編集責任者 教 宣 部

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの?』⑤

会社が想定した『需要増』の根拠は??

会社は、需要が伸びることが想定されるからリニア中央新幹線を自己資金で建設できるとしています。(シリーズ②参照)

会社は、時間短縮による航空シユアの転移などで需要が伸びるとしていますが、本当に需要が伸びるのでしょうか!?

需要が伸びる=多くのお客様に乗ってもらうことですから、景気が回復して経済成長が続いていき、国民所得が増え、結果として需要が増えていかなければリニア中央新幹線だけが需要増にはならないと思います。しかし、現在の日本は景気低迷が続いており、国民所得は増えるどころか目減りしているのが現状です。東海道新幹線も2年連続マイナスしており、現在の状況からすれば会社が想定した『需要増』はとても想定できるものではありません。

人口減少で需要は減少するのではないか!?

日本の人口推計

年	人口
2009	127,395
2010	127,176
2011	126,913
2025	119,270
2026	118,502
2027	117,713
2044	101,503
2045	100,443

(1,000人)

また、需要増が予想できない理由として景気的なことだけではありません。

それは日本の少子化問題で、日本の人口は2005年より減少しています。

左表は、国立社会保障・人口問題研究所が行った日本の人口の将来推計の一部です。この推計によると会社がリニア中央新幹線の名古屋までの開業を予定している2027年で現在より約1000万人減少、そして大阪開業予定である2045年では1億人を下回る直前という具合に人口の減少が続くことが推計されています。

人口が減少すれば当然鉄道等の交通機関の利用者が減少することが予想され、需要増にはなかなかならないのではないのでしょうか?従って会社の需要増の想定は建設のための都合いい想定ではないかと危惧されます。